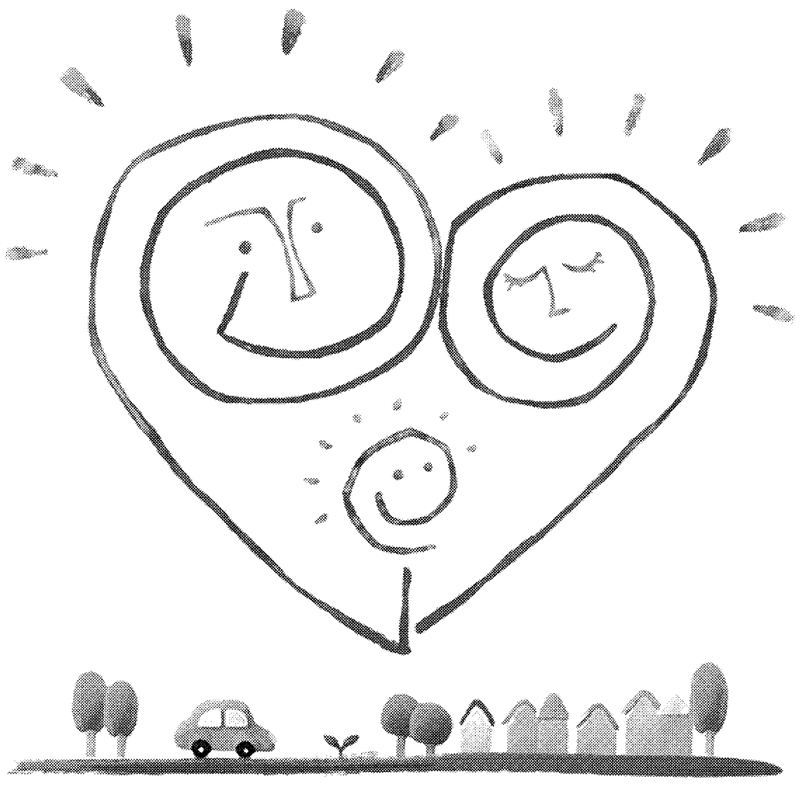


DIC

うれC、たのC、DIC
(シー シー ディー アイ シー)

化学で暮らしをステキにしたい！
うれしい笑顔、たのしい笑顔が
見たいから。

DICは、
「化学で彩りと快適を提案する」
ケミカルカンパニーです。

DIC株式会社
(ディー アイシー)
http://www.dic-global.com/

色彩の総合メーカー

未来をひらく色彩。
21世紀情報化社会の環境・文化形成に色彩技術を役立てます。

21世紀は環境の世紀、そして人と人との結びつきを大切にしていく世紀です。
色彩は人類誕生以来、天と地と人を結び、人と人が＜こころ＞を通わせる貴重な視覚言語であり、現代のグローバル・カラーコミュニケーションは長い歴史的伝統に根づいて進められています。
大日精化は色彩の総合メーカーとして世界を結ぶ日本の色を各産業分野に提供し、色彩技術革新による環境対応製品の開発に鋭意つとめ、色づくりの自社環境を含めて、調和ある街並みや新しい都市環境をきづく公共的な環境色彩形成活動への企業文化支援を続け、色彩科学技術の成果を、環境、文化、＜こころ＞をつなぐ虹のかけ橋としたいと願っています。

●顔料
有機顔料・無機顔料・加工顔料・
ビーズ顔料・可溶性顔料・機能性色素他

●着色剤
プラスチック着色剤・合成繊維着色剤・
顔料捺染剤・製紙用着色剤他

●塗料・塗工材
紫外線硬化型塗工剤・塗料用カラーベース・
建築舗装用水性塗工剤・太陽熱反射塗料・
機能性塗工剤他

●印刷インキ・印刷機材
オフセットインキ・グラビアインキ・
フレキソインキ・
印刷機・製版印刷材料他

●合成樹脂
カラーコンパウンド・機能性コンパウンド
成型用ウレタン樹脂・合成皮革用樹脂・
表面処理剤・接着剤・電気絶縁ワニス他

●情報記録・電子関連材料
IT情報表示用色材・IT情報記録用色材・
IT・電子関連機能性材料他

●天然高分子・ヘルスケア
キトサン・キトサン応用製品・
コラーゲン応用製品・化粧品素材他

ハイテク&カラー 大日精化
Dainichiseika+Daicolor Group

大日精化工業株式会社
Dainichiseika Color & Chemicals Mfg. Co., Ltd.
東京都中央区日本橋馬喰町1-7-6
Tel.03-3662-7111
Fax.03-3669-3924
http://www.daicolor.co.jp
レスポンシブル・ケア
環境色彩形成に企業文化メセナを続けています。
No.550

インキ大手 国内再編

各社、収益改善進む

食品包装用など堅調

インキ大手各社は国内事業の再編による収益改善で成果を上げている。市場が急拡大中の東南アジア各国などに対し、日本市場はその陰に隠れがちだ。だが、依然として規模そのものが大きく、また高品質で環境配慮型インキが多く使われる日本市場は各社の収益の屋台骨となっている。

印刷インキ工業連合会によると、2012年の印刷インキの国内生産量は前年比2・0％減の36万6016トン。出荷量は同1・9％減の42万4938トン、出荷額は同0・2％減の2975億3500万円となった。日本では人口減少や紙媒体のデジタル化が進んだことから、01年以降では06年の国内生産量45万4618トンをピークに下落傾向が続いている。

だが、各社の国内事業は増益基調にある。例えば、DICの13年3月期の国内印刷用インキ事業の売上高は884億円と前年度比2・5％減だが、営業利益は60億円と同約50％増の見通しだ。

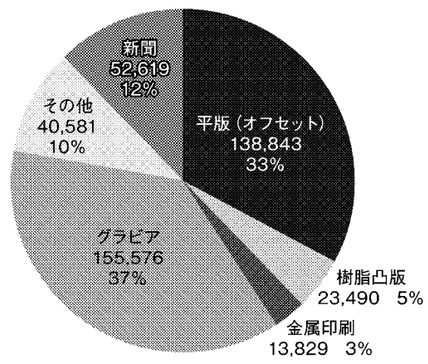
各社、工場や開発機能など国内事業の見直しを図っている。DICはここ数年で全国の主要工場を閉鎖したほか、営業拠点の統廃合や製品の集約などを実施した。サカタインクスは3月に千葉県船橋市の旧船橋工場を売却した一方、14年3月の完成を目標に滋賀県米原市に物流拠点を新設する。

東洋インキSCホールディングスは埼玉県の製造拠点に研究開発機能を集約するなど、マザープラント機能を強化。また、大日精化工業は関東と中部、近畿地方の連結子会社3社を統合。統合により経営の合理化や意思決定の迅速化を図る。

「地域間で商品の供給や原料調達の融通を利かせやすい」（同社）といったメリットもあるという。

12年の国内インキ出荷量の主な内訳は食品包装などに使われるグラビアインキが37％、書籍やカタログ、雑誌、チラシなどに使われるオフセットインキが33％だ。中でもグラビアインキは食品包装材の小口化が進んでいることで、日本でも需要が堅調に推移している。

2012年の出荷量と構成比



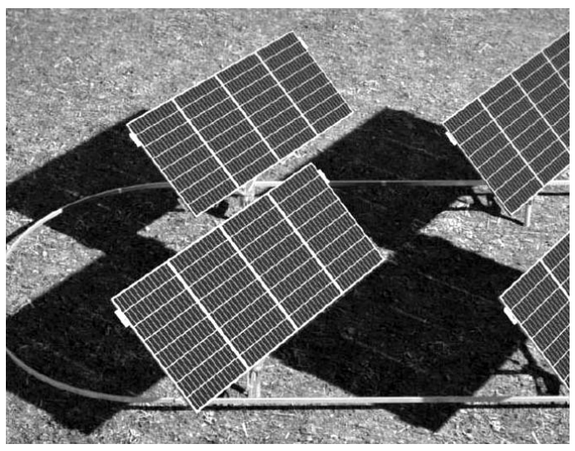
（印刷インキ工業連合会の統計から作成）

太陽電池部材 拡販へ

信頼性向上がカギ

技術力・高品質アピール

太陽電池モジュールの信頼性向上につながる部材の拡販に化学メーカーが力を入れている。昨年は太陽光パネル市況の急落を受けて部材の需要も低迷したものの、太陽電池の信頼性に対する意識は高まっており、化学メーカーに巻き返しのチャンスが訪れている。



欧州でメガソーラーの出力低下が相次いだことで、日本でも2012年夏ごろから太陽電池システムの出力が低下する「PID現象」への関心が高まった。一因とされるのが、主要部材のエチレン酢酸ビニール共重合樹脂（EVA）系封止材から発生する酢酸。電流漏れによる太陽発電モジュールの出力低下を招く可能性があるとされる。

三菱樹脂はポリオレフィン系封止材を手がけている。1月末にケミトックスが実施したPID効果の試験結果によると、三菱樹脂製の封止材を搭載した太陽発電モジュールでPID現象は確認されなかった。三菱樹脂では試験結果を基に、一部の採用にとどまっていた封止材を大手パネルメーカーに売り込む。

JNCは太陽光追尾型発電設備の実証試験を開始した

東レは太陽電池向けバックシートを製造販売する。12年夏に大津市の瀬田工場にPID現象の評価設備を導入。ユーザーへの信頼性向上につなげるほか、自社の新製品開発にも用いる。

DICもマスターバッチのほか、バックシート向けに紫外線（UV）を吸収するコーティング剤などの開発に力を入れている。UV吸収によってバックシートの耐候性が高まる。

カネカも自社の薄膜シリコン太陽電池がPIDに対して高い耐性を持つことがケミトックスによって実証されたと発表している。初期性能だけでなく、長期使用を想定した上でのメリットを顧客に訴える。

このほか、JNC子会社の千葉ファインケミカルは千葉県市原市内で太陽光追尾型発電設備の実証実験を始めた。米QBotixの2軸の太陽光追尾の技術を採用。定置型パネルより約4割増の発電量を見込んでいる。

鹿児島県川内川の曽木の滝。その下流に、JNCのルーツである曾木発電所の遺構があります。創業者 野口遵(したがう)がこの地に起業した明治39年当時は、日本の産業革命ともいわれる時代。そうしたなか野口遵は、曾木発電所の余剰電力を使い、石灰岩から窒素肥料を製造。輸入に頼っていた肥料の国産化を実現し、さらに日本で初めて合成アンモニアの工業化に成功、生活資材や化学繊維などの各種化学品の製造販売を続々と開始しました。そんな野口遵の、豊かな暮らしに貢献したいという想いと、パイオニア精神にあふれた行動力。私たちJNCには、そのDNAが脈々と受け継がれています。

JNC

JNC株式会社　http://www.jnc-corp.co.jp/
〒100-8105　東京都千代田区大手町 2-2-1 新大手町ビル　TEL . 03-3243-6760

チッソ から、JNC へ。